



陸奥のまふの里もまたく
まふ乃細布織くれづく錦木や名た
らぬらしみらぬくの志のふまら
まの御ぢく子乱神く我くと藤
子何虫れ身子鳴く蟹生草のソウ
ゆくぢのをがこし衣干の森れ下露
あふまをほこしとておまをゆ

ハ芸の袂し心のあを清括やま
いを程れ身にあらはれは秋の
あり顔少く思ひぬ人を思ひ福乃夏
り現の寝ての覺るのうれや五葉の
習ひるれ徒ままくる心ハ多けま
と才よまると事多敷門流て子ま月
日ゆく
言や流てま妹林の甲れ

何とぞぐく吉野の山ハゆくらや
ハ又心乃ぢく陸奥のまふ乃郡の
名く打ふ細布のまふ替違錦木
乃子亦百夜いつくよく甲寺
也トニもふく早きわなるれ子
は市人ともれハ主婦と打はきて
女性の持たけハ鳥羽羽少く織

たる布とみく又おやこの拵た
るちりくも色れおふれ木也
ゆきもく不さ後たる賣物ツ是も
何ぞりたるものみく是是れ細
布とてまきりせ反寺布也 是ハ
錦木とて色とるあまら木なり何
きもくあ町の名物ある是こ名ま

世をくつて山あふ身をもかくさ
ハ胸あひいしきこいを讀て恨
色よせ名をもたさありぬを
程とよき平の錦木立ちあり
くす朽よけれくきふの細布胸あ
りともやこころも淡細布乃ま
るもさる地やしく手物終取し
か

京やまのハ岩代乃松れとも紫れ
まこと夕日の影も錦木れ宿里子い
やぬらしく男物終取細布の謂
河物終く男昔より此所の習あり
男女の媒も及は錦木をけく里女の
お乃門子立ちおのなるれハ
志く父よりおふて是を錦木といふ

去程よりある處に男の錦木を及らわ
入逢せしきと及れ入らる或ハ百歩
三と歩道もたてしにやうく三年
の日後直なるをよむと千束を漬り
又此山陰に錦塚とていふ是れ三
十年迄に寺木立たり人の古墳
る終るに軍経木の敷を塚子行

こめく是を錦塚とせし
塚をわけて故心の物経し志とる
をいふと竹作人 三首 あふりくく山
羅ハ教りこし シハカレ 入せ給へ
とて 六 夫婦の志を先子立波様人を侍
い 高 けり 下 妻乃細るおを 下 錦
塚ハ何くうのをりに 下 草前おのこ

...乃通路明らうに教ふや
...を反汗は同す一ま如の珠
...行くやもとめたくそ打ほなる
昔の秋こそきなり夕暮言風未枯村時雨
露の...は...のとりきも也
...松桂は鳴りくろふ蘭菊の花は
...は...塚の草もみり

...深く錦塚は是りと云捨て塚の内
...入るまぬは塚に入らぬ
...の角乃つうの板をく移す
...物の好月れ松乃下りおしす
...念佛事をもやまぬらしく
...は...樹一行の信を汲も地生
...縁うと少柳をまきてや値遇の何

と見しつねりけりや
燈火影
ゆるりする人家の
ゆるりにまじりて
たき薪木をつまみ
昔を顯す粧り
是ハ夢のやうつら
や
言さ心
の闇にまじりて
夢現と見世人を
りよと
言
空や昔も業平も
世人をり
よといひけり
物と夢現と見
極人

早よ九、一一

能く志海にけり
けき
夢現なりて
昔を
下
我も
我子見を
けり

昔を顯しんと
夕の月乃
女ハ塚の
ゆるり入て
秋乃
心を
細布
のまじりて
立る

お門とハ
縁まじり
待たる門と

ハヨもつ寺ハ然ハ八ハ值ハ強ハ寺ハ縁ハ了ハ
らりてハたハえハぢハらハ一ハ葉ハ妙ハ典ハのハ功ハ力ハをハ
えハしハとハ懺ハ悔ハのハ姿ハ多ハ中ハ子ハおハもハ顯ハ寸ハ也ハ
下各おハ門ハらハ反ハ錫ハ木ハとハてハこハるハハハ女ハ多ハうハらハ
子ハ細ハ布ハ乃ハてハ織ハ虫ハれハ身ハ子ハ立ハてハらハふハ
送ハしハとハるハけハまハをハ手ハ子ハ内ハ外ハ子ハ男ハうハとハ
ハハ志ハしハれハ知ハるハ甲ハ植ハのハ葉ハのハ戸ハさハりハ

ハ其ハ儘ハ少ハくハおハハハ院ハアハあハけハいハまハ反ハ
寸ハこハくハとハ立ハりハぬハ去ハ程ハ子ハおハいハのハ
教ハもハ積ハりハまハてハ錫ハ木ハ多ハ父ハ朽ハくハさハあハらハ
言ハ子ハ埋ハ其ハ乃ハ人ハ志ハしハぬハ才ハあハらハハハうハくハ
てハおハいハまハ也ハまハすハるハ魚ハ兒ハ子ハ錦ハ木ハハハ朽ハまハ
とハもハ必ハ多ハたハらハそハいハてハ逢ハりハハハ廣ハもハ父ハ
子ハ出ハまハるハらハわハ豆ハのハ根ハ木ハをハはハ錦ハ木ハをハ

